

情報社会の今と明日を見つめて

情報流通行政局地上放送課課長補佐 **中村 朋浩**

経 歴		Tomohiro Nakamura
平成 13 年 4 月	総務省（総合通信基盤局総務課）採用	
平成 13 年 9 月	同 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課	
平成 15 年 8 月	同 大臣官房秘書課（採用担当）	
平成 16 年 7 月	同 情報通信政策局情報通信政策課 コンテンツ流通促進室放送ソフト振興係長	
平成 18 年 1 月	内閣官房郵政民営化推進室主査	
平成 19 年 7 月	米国留学（米国シカゴ大学大学院）	
平成 21 年 7 月	総務省総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課課長補佐	
平成 23 年 7 月	同 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課課長補佐	
平成 25 年 9 月	総務副大臣秘書官	
平成 26 年 9 月	現職	

私が大学生活を送った90年代後半は、希望と不安が渦巻く混沌とした時代でした。山一証券や長銀といった、つぶれるはずのない巨艦が破綻し、社会に不安が漂っていた一方で、「これからITがすごいらしい」といった、未来への漠然とした希望も見えていました。

私は、物事を深く考える性質ではありませんでしたが、世の中何もしてくれないなら、自分で世の中変えればいいじゃないか、と単純に考えて役所に入ることにしました。役所は、「これからすごいらしい」ICT革命を推進する総務省を志望しました。

最初の仕事は電柱と土管

ICT革命を推進せん、と入省した私が、初めて担当したのが「電柱と土管」でした。ICTと言うとスマートな響きがありますが、そのI、すなわちInformationを運ぶのは、詰まるところ電線です。その電線を引っかけたり、通したりするには、電柱やら土管が必要で、私の初めての仕事は、その貸し借りルールを決める、というものでした。

いくら必要と言っても、華やかな横文字革命と土管を結びつけられず、落ち込むのが一年生です。帰省の折に、母から「あんた苦労してんねんなあ。土管でアレやろ、スーパーマリオやろ」と言われた際は、情けない思いでした。

しかし、実際の職場は、そんな電柱と土管に必死でした。電柱を借りたい事業者が、連日やってきて持論を展開します。電柱を持つ事業者もこれまたやってきて猛烈に主張します。それに対応して上司（係長）が必死に調整・立案するのです。電線の敷設には電柱がほぼ不可欠で、係長が必死になるのも当たり前なのですが、当時の私は不思議な気持ちでした。

係長の必死の交渉の末、策定されたルールをホームページに掲載するのは私の仕事でした。実際、それが報道資料として公表されたのを見たとき、何だかこぼれ気分でした。その週末、街でふと電線が視界に入り、今度は晴れがましい気持ちになりました。

「仕事っておもしろいな」

まだ横で見ている場面が多かった私は、単純にそう思ったのです。2015年の今、電線そして光ファイバは電柱にきちんと架かり、インターネット接続サービスは安価に提供されています。私が学生時代に思った「世の中」は、今思えば、きつとこのように変えていくものなのです。

電柱と土管を離れても

それ以来、あの時の係長のようにになりたい、あのこぼれ気分を味わいたいと思って仕事をしてきました。

2013年夏まで、携帯電話事業者間のネットワークの貸借ルールづくりを担当しました。そこでは、こぼれ気分と同時に、多くの挫折も経験しました。ネットワークの貸し借り？と思われる方が多いと思いますが、今流行りの格安SIM、その貸し借りのやり方や賃料のルールを策定するのが私の仕事でした。

多くの国内産業が伸び悩む中、モバイルは爆発的な発展が見込める数少ないフロンティアです。しかしながら、多くの関係者の思惑が入り組み、ルールの巧拙や、打ち出すタイミングによっては急速に萎みかねない、そういう危うさをもった市場でもありました。

連日続く数時間にも及ぶ関係者との議論、くじけそうになる私を、上司が鼓舞し、方向性を指し示してくれます。部下も必死で議論についてきてくれます。今度は不思議な気持ちはありません。みな明日のモバイル市場を創ろうと必死でした。多くのアイデアが交渉の谷間に消え、挫折を味わい、多くのアイデアが生まれ、それを磨くたびに昂揚を味わいました。

最近、よく、電気屋さんで格安SIMを見かけます。それを見ると、私の胸に、「これは俺が」というこぼれ気分と、「ああしてあげばもつ」というほろ苦さが同時に去来します。私は、あの係長のように、世の中を変えられたのでしょうか。それはもう少し経てばきつと分かるでしょう。

おわりに

皆さんが、もし世の中何もしてくれないと感じているのなら、総務省の門を叩いてみてください。そこには、ほろ苦さやこぼれ気分、そして世の中を変えるチャンスがきつと待っています。



生まれたばかりの息子と

経 歴

経 歴		Ayumi Inoue
平成 23 年 4 月	総務省採用	
	同 情報流通行政局情報流通振興課	
平成 23 年 7 月	同 情報流通行政局情報通信作品振興課	
平成 25 年 7 月	同 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課	
	併任 電気通信利用者情報政策室	
平成 26 年 7 月	現職	

世の中の半歩先へ

情報通信国際戦略局国際協力課国際機関協力係長 **井上あゆみ**

やり応え十分な国際のお仕事

この原稿を書いているとき、私は、ASEAN諸国の大臣が集まる会合に、日本側代表団の一員として参加するため、タイに来ていました。日本とASEAN間でのICT（情報通信技術）分野におけるこの1年間の取組を報告し、さらに協力関係を強化していくために、今後1年間の取組について意見交換を行うためです。

いつもは目の前の仕事で忘れがちになりますが、こうして出張をしている際に再認識するのが、今自分がいるこの場所が日本の最前線になっているということ。相手国のニーズが明確になる上、こちらの提案に対する先方トップの一言で、物事が動くことも少なくはありません。

現在、私はICT分野の国際協力に関する仕事を行っています。国際協力に関する仕事と言っても、冒頭で述べたような複数国間での会議や、二国間での会議、総務省の予算やODAを活用したプロジェクトの実施、専門家の派遣等手段は様々です。また、国際協力の対象となる新興国は、日本企業の新たな市場としても注目されており、単純な国際協力としてだけでなく、我が国企業の海外展開につながるように戦略を練ることも重要になります。特に、ASEANは2015年に統合し、ASEAN経済共同体となることが予定されており、ヒト・モノ・カネの移動が自由化されさらに活発になれば、情報通信の果たす役割はますます大きくなると考えられます。まさに今2020年をターゲットにしたICT分野の基本計画がASEAN地域で検討されているところで、日本国内の政策の動向と、ASEAN各国のニーズの両方をみながら、日本としてどのような貢献策を提示できるかに悩む日々は、苦しいですが非常にやりがいがあります。

利用者視点を大事に

これまでの仕事を振り返ってみると、たった4年間とは思えないほど、色濃くにぎやかな日々を過ごしてきたと実感します。今では当たり前のようにスマートフォンやタブレット端末を使って楽しんでいる電子書籍の普及に向けた環境整備や、権利処理の円滑化や国際共同製作の支援を通じた放送コンテンツの海外展開支援、位置情報の取扱いなどスマートフォン時代に合わせた個人情報やプライバシー保護のためのルールづくり。どの仕事も、扱っているものは皆さんの半径5m以内にありそうな身近なものですよね。だからこそ、もっと便

利な社会にするためにはどうしたらいいか、もっと日本のプレゼンスを高めるためにはどうしたらいいか、若手のうちからユーザー視点を持った自分のアイデアを聞いて議論してくれる環境が、良いモノであれば実際のプロジェクトに活かす機会が総務省には転がっています。

耳をすませば

今の皆さんと同じ受験生のときに、説明会でのなんだか面白そうという好奇心を頼りに選んだこの職場ですが、常に変わり続ける状況・技術・サービスを相手にする日々の仕事に飽きることはなく、その選択は間違いではなかったと言えます。

新しいこと、前例がないことに挑戦するのは勇気がいります。自分の経験のなさや自分の決断が与える影響を比較して、悩むこともあるかもしれません。ただ、どの仕事も、自分一人だけ、総務省だけで取り組んでいるものではなくて、ヒントをくれる方、同じ方向を向いて推進力になってくれる方がいます。そうした方々の声にきちんと耳をすまして、さらにその半歩先を照らせるような政策作りに知恵を絞ることが、国家公務員である今の自分の役割なのではないかと思っています。

新しいことにワクワクする人、人の話を聞くのが楽しい人、自分が世の中の役に立つ方法を探している人、ぜひ総務省を人生の選択肢に入れてみませんか？皆さんの素直な想いやアイデアを耳にする日を、楽しみに待っています。



◀当時の職場の仲間で
出向者を送り出し



国際会議での日本代表団（筆者左端）